

安曇野市教育委員会文化課と連携し、市民参加ワークショップにより『安曇野ふるさと遺産』の考え方をまとめ、選定しました。

2018年8月8日

安曇野市役所

- ・安曇野市の文化的資源の保存・活用の課題と解決策を議論

27名



2018年9月5日

穂高会館

- ・安曇野市の指定文化財の特徴・種類を学習
- ・文化財指定のない資源で継承の必要性の高い候補を列挙・整理

18名



2018年10月17日

穂高支所大会議室

- ・第2回までの議論をもとにふるさと遺産の概念を整理
- ・候補を9つ整理し、その価値や物語の構成要素を整理

13名



2019年1月15日

穂高支所大会議室

- ・候補の絞込みの議論
- ・絞り込んだ候補の構成要素、価値、背景の物語等を出し合い、特徴を把握

20名



安曇野ふるさと遺産

安曇野屋敷林フォーラム2019



『安曇野ふるさと遺産』の取り組みは、安曇野屋敷林フォーラムで報告すると共に、認定エリアで活動する市民団体と、今後の連携に向けた協定書を取り交わしました。



NPO法人 安曇野ふるさとづくり応援団【事務局】〒399-8304 安曇野市穂高柏原1132番地2

Tel 0263-81-1325 URL:azumino-furusato.com

屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト【事務局】〒399-8281長野県安曇野市豊科6000番地 安曇野市観光交流促進課

Tel.0263-71-2053 URL:keikan-azumino.net

安曇野ふるさと遺産

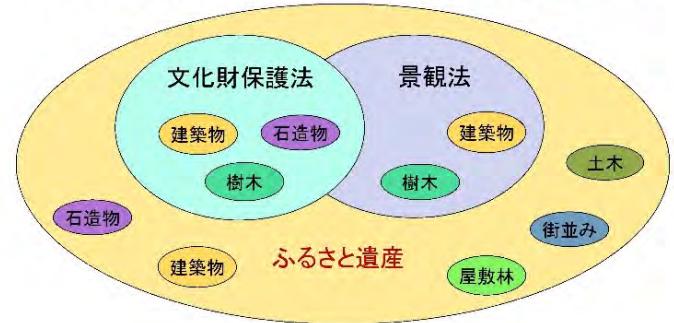
安曇野ふるさと遺産とは？

安曇野には法に基づく文化財には指定されていないものの、「暮らし」に根付いて脈々と受け継がれてきた文化を継承する文化的資源（歴史文化景観遺産）がたくさんあります。NPO法人安曇野ふるさと応援団では、2007年から開催している「ふるさとウォッチング」を通して、地域の歴史文化景観遺産の再発見に努めてきました。「安曇野ふるさと遺産」とは、失われつつあるこうした歴史文化景観遺産をNPO法人安曇野ふるさと応援団が認定し、協働で継承していく新たななしきみです。

「安曇野ふるさと遺産」の認定により、認定エリアで景観育成活動を行っている市民団体と協定を締結し、長野県安曇野市・地域住民等とも連携して、調査研究・保全活用・広報啓発等を行っていきます。

安曇野ふるさと遺産～協働のしくみづくり

- ◆目的 失われつある安曇野の文化遺産の継承
～法的な保全活用への第一歩として～
法的な保全活用へ向けての第一歩としての『ふるさと遺産』



着眼点

<市内の文化的資源の課題と解決策>

- ・安曇野市の文化的資源を今後に継承するために必要な5つの要素

人材・つながり **情報発信**
資金・財源 **活用例・活用策**
法制度

<文化財指定や登録のない資源の特徴と継承の方法>

- ・姿形を変えながら今も息づく「現役」の要素であることが多い。
- ・現役の要素も含めて、複数の文化的資源の組み合わせとして維持継承することの重要性
- ・組み合わせから見出される価値・ストーリーの重要性

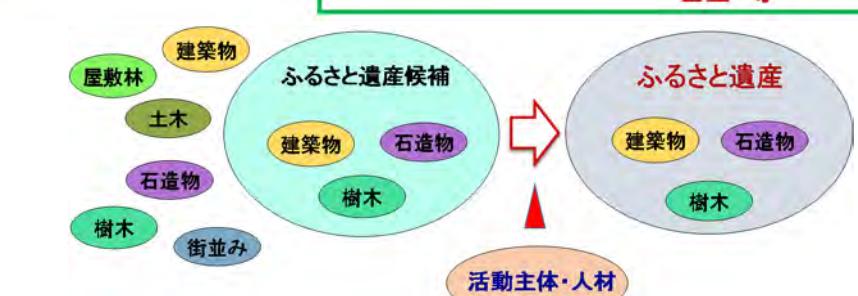
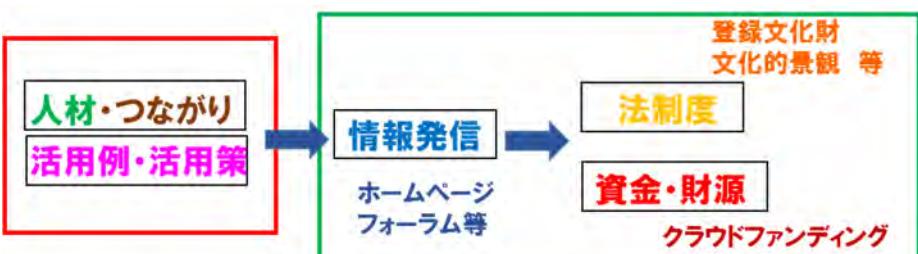
このような状況を踏まえ、安曇野流の文化的資源を継承するためのしくみとするべく「安曇野ふるさと遺産」の取り組みの展開を具体化しました。

取り組み概念図

安曇野らしい多様な要素を含む文化資源のまとまりを「ふるさと遺産」候補として抽出。

すでに活用主体や人材があり、『新たな視点で価値付け』をすることで効果的な情報発信へ。

ふるさと遺産としての価値を新たに発信することで、新たな制度構築や資金源確保の取り組みにつなげていく



活動主体のある文化財群を『ふるさと遺産』として認定支援



指定や登録の対象となっていない文化的資源

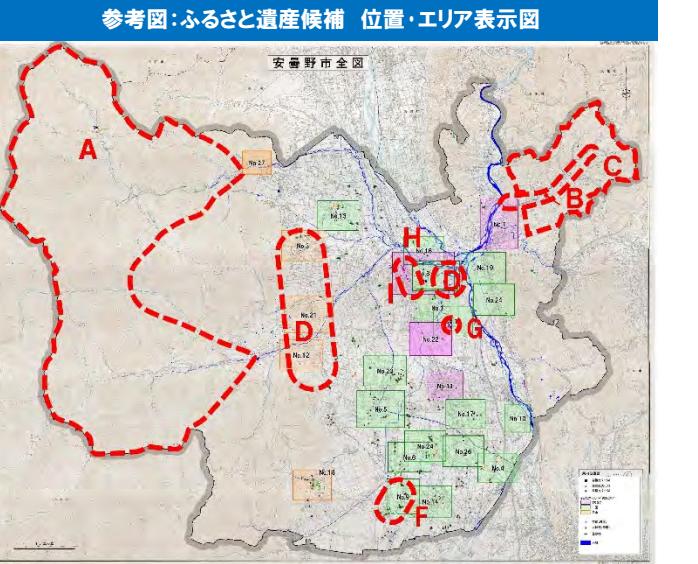
資源名 特徴

関連する要素の組み合わせにより多様な価値が生まれるまつり

候補選定条件

- 安曇野に息づく文化や暮らしとかわりの深い資源で、現在も往時の雰囲気や名残があり、かつ下記の条件を満たすもの。

- 文化資源単体ではなく複合的な要素の組み合わせ
- 現役で稼動・機能している資源、あるいはすでに往時の機能や利用は消失しているものの別のスタイルでみがえっている（または蘇ろうとしている）資源。
例）市民や地域との関わりがある幅広い活用がある 等

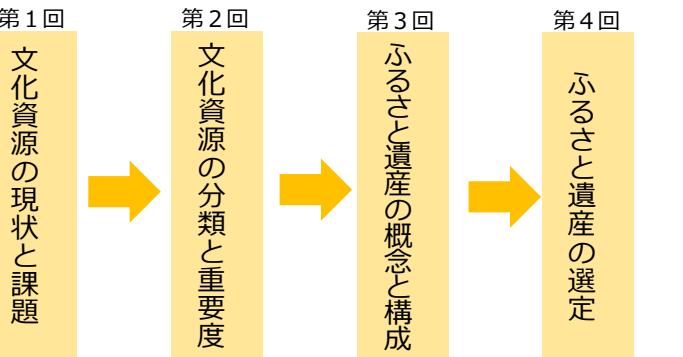


認定対象の整理・絞込み

- 候補となつまつりそれぞれについて、特徴的な構成要素とそこから導かれるストーリー、産業や生産活動、市民活動の内容などを整理。
- 認定にあたっては、市民活動の主体性と構成要素消失のリスク（緊急性）の2点、から検討。

安曇野ふるさと遺産

<市民参加ワークショップによる具体化>

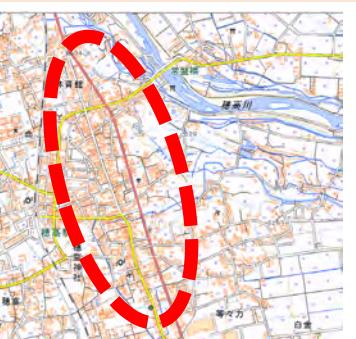


信州の交通の変遷史が刻み込まれた多様な道筋と里山の恵みを活かした暮らし・文化

明科地域の北東部に位置する潮沢地区は、篠ノ井線廃線敷のある地区として知られていますが、市内で人口減少が顕著な地域のひとつ。自動車交通が発達する以前は、山々からの恵みを活かし、長野と松本を結ぶ山道を通じて人馬の移動が盛んで、まさに交通の要衝となる山間集落でした。そこには多様な営みと人々の暮らしの物語があり、現在もその痕跡や名残が各所に見られます。



旧穂高町の旧国道沿いはかつての千国街道の宿場「保高宿」で、文化庁の調査報告書※にも取り上げられています。明治時代以降の鉄道網の発達や自動車交通の発達で、宿場の雰囲気は失われつつありますが、旧穂高町の中心地として、江戸末期～明治～大正～昭和～平成までの様々な時代のまちの構成要素が入り混じった特色ある空間になっています。その特色をまちづくりや活性化の活動に活かしていくことが大切です。



協定団体：安曇野まちなみぎわいプロジェクト

項目

内容

- 市内西側の扇状地の末端に広がる緩やかな地形
- 千国街道沿いの主要な宿場のひとつ

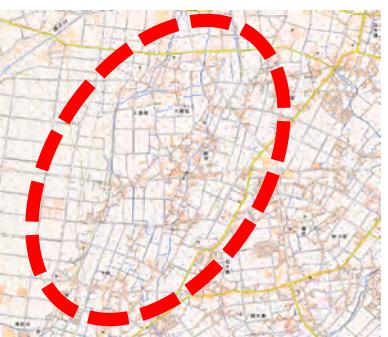
- 浜形・十王堂
 - ・宿場のまちを伝える名残
- 道祖神等の石造物
 - ・昔の街のなかで昔から続く信仰
- 町屋建築
 - ・宿場の痕跡を伝える建物
- 見世蔵・看板建築
 - ・明治以降の近代化を伝える建物
- 孤小路
 - ・明治～昭和初期まで多くの人が訪れた歓楽街の名残
- 多くの偉人たちをはぐくんだまち
 - ・松沢求策、井口喜源治、小川大系 他
- 火の見櫓
 - ・黒部ダム建設の生き証人

- 個々の店舗の連携等を通じて活性化を推進
- 市街地の環境の変化のスピードが速く古いものが厄介者扱いの傾向

- 旧保高宿今後のまちづくりに向けた提言
- 安曇野まちなみカレッジ
- 穂高あめ市 ○穂高七夕 等

先人たちがつくりあげてきた生産環境と蚕種生産がもたらした豊かな実り

三郷地域の南部に位置する長尾地区には市内最大級の屋敷林（松岡家）があり、隣接する野沢地区は文化庁の調査報告書※にも取り上げられており、緑に囲まれた集落がみられます。これらは、古代から長い期間をかけて先人たちが築き上げてきた土地からの実りがもたらした証ですが、その背景には土地条件や環境、農業生産も深く関わっています。屋敷のまわりの緑の利用が減つた今、その物語も含めて継承していく活動が重要です。



協定団体：屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト

項目 内容

- 環境の土台 田園
 - 扇状地の扇尖部で礫も多い荒れた土地ではあるが、梓川などの縦堀に沿って生まれてきた集落・生産の場
 - 種をつくる“桑”～原種に近いクワ（標高600～800m）の適地

- 物語 構成要素
 - 莊園（住吉莊）が存在した地域
 - ・縦堀沿いに集落と耕作環境が発達
 - ・古くから実りの豊かな土地と集落が存在

- 人名のついた堀の多さ
 - ・江戸以降、先人たちの苦労により横堀が発達

- 蚕種生産とその潤いの名残
 - ・明治期～昭和初期までの大きな糧、収入源
 - ・富を蓄えた人々が大きな家屋を建立または移築（野沢に移築された本棟造15棟・温銀行の金庫だった蔵等）
 - ・三味線を使ったお囃子が残る（野沢地区）

- 豊かな実りにあわせて発達してきた屋敷林・本棟造
 - ・植栽：南からの季節風を防ぎ暮らしの糧も生んだ緑実のなる木、用材も植え込んで「使える森」
 - ・蚕種生産では温度管理にも間接的に貢献
 - ・本棟造：土地の恵みから得られた豊かさや権力の証

- 産業の関係・課題等
 - 養蚕から稻作・果樹栽培への変化
 - 屋敷林の役割の変化と後継者不足

- 市民活動等の内容
 - 屋敷林見学会
 - 落ち葉拾いボランティア 等

天蚕の恵みと新屋の屋敷林

天蚕からの富が生み出した『豊かな集落』

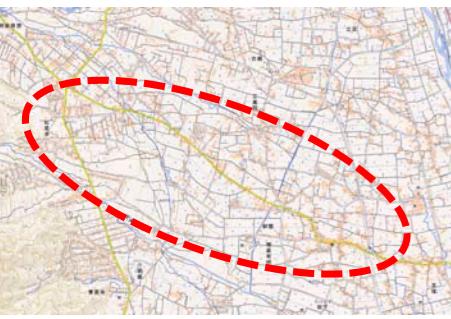
認定2019-1

新屋一帯は、中房川の扇状地の水利条件の悪い土地でしたので、近世以降の用水整備等に伴い集落が成立してきました。しかし、明治に入ると周辺の村々と有明村を構成し、その中心地となりました。この急激な発展を支えたのが、荒れた土地に自生するクヌギを餌にする蛾の繭からの『天蚕糸』がもたらした富でした。この富は住まいの形を変え、暮らしを豊かにし、山麓の観光開発にもつながっていました。



協定団体：屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト

項目	内容
環境の土台 田園	<ul style="list-style-type: none"> ○礫が多く、稻作に不向きな中房川扇状地の扇央部 ○「砂地・凍み・乾燥」の3条件が整う天蚕に適した環境
物語と構成要素	<ul style="list-style-type: none"> ○「やまこ」で生まれた富で立派な住まいへ変化 <ul style="list-style-type: none"> ・明治中期には有明村3000haから年間800万粒の天蚕繭を生産 ・約90のカマ（繰糸所）があり、天蚕から柞蚕、家蚕で豊かなくらしへ ・住宅建築も変化（かやぶきから本棟造へ） ○防風を主目的に植えられた木々が年月を経て屋敷を囲む森に <ul style="list-style-type: none"> ・かやぶき屋根材の飛散防止のための防風機能 ・曾根原家住宅は国内最古の本棟造系統の民家 ・ヤマからヒノキ、クリ等を植樹した屋敷林と本棟造の集落 ○有明の中心地への発展・山麓の観光産業にも寄与 <ul style="list-style-type: none"> ・大正期以降、村の中心として役場・学校などが集積し、発展 ・穂高温泉郷への引湯・山岳観光（有明温泉松尾寺内・鐘の鳴る丘他）
産業の関係・課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○天蚕の振興 ○文化財の維持保全・活用 ○屋敷林の役割の変化と後継者不足
市民活動の内容、人材・つながり	<ul style="list-style-type: none"> ○市民団体による文化財の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・やまこの学校（鐘の鳴る丘集会所） ・安曇野スタイル（曾根原家住宅）



やまこの繭



白壁の蔵と屋敷林



有明温泉 (鶴野義典提供) (穂高町誌より)

引湯に使用した木管
(穂高町誌より)鐘の鳴る丘集会所
(市指定文化財)曾根原家住宅
(国指定重要文化財)

古墳の発掘調査



鐘の鳴る丘集会所でのやまこの学校



安曇野スタイルでの曾根原家の利用

烏川扇状地と西山山麓の里山文化

烏川の扇頂部の地形を生かして育まれてきた暮らしの知恵と様々な恵み

認定2019-2

烏川谷の出口一帯は、山からの水と森からの恵みを享受できる場所ですが、扇頂部で礫も多く水温も低く地形も複雑なため、安定した稻作には工夫が必要な土地でした。長い年月をかけて先人たちが編み出してきた利水の工夫・苦労の痕跡や山からの恵みも活かした文化、技術などが育まれ、常念岳を背景に全国にも誇れる里山環境が保たれています。

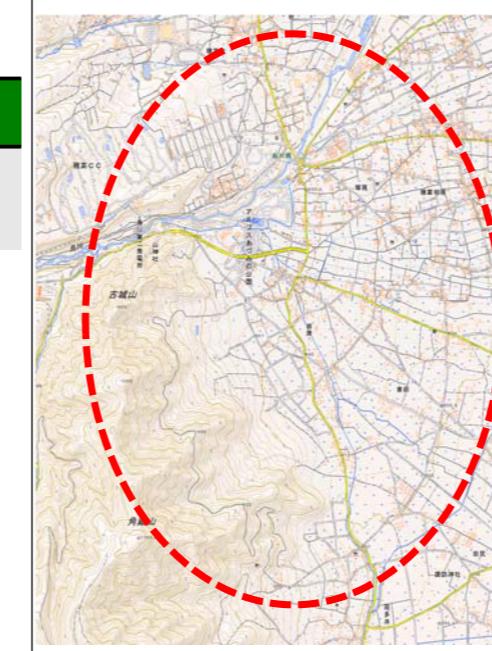


常念岳と山麓の水田

山裾の棚状の地形

協定団体：岩原の自然と文化を守り育てる会

項目	内容
環境の土台 里山	<ul style="list-style-type: none"> ○烏川水系の扇状地・扇頂部 ○烏川谷の出口（冷たい水、礫が多く貧相な土壤） ○桑やクヌギの林を主体とした土地利用
物語と構成要素	<ul style="list-style-type: none"> ○安曇平の水田の聖地 <ul style="list-style-type: none"> ・1000年以上前の古墳群 ○先人たちのつくりあげた様々な「水」に支えられている暮らし <ul style="list-style-type: none"> ・烏川の水の分け口（五力堰、岩原堰等） ・山の水はため池としても活用（白池堤等） ・「どんぶら」「ぬるめ」を設け水をあたためて利用する稻作 ○時の有力者も目をつけた土地自然 <ul style="list-style-type: none"> ・戦国時代の堀金氏の山城となった岩原城 ・大庄屋山口家（烏川の水、西山との結び付き） ○『ヤマ』からの恵みを活かす里山環境・半自然環境 <ul style="list-style-type: none"> ・傾斜地の棚田の畔の多様な野草（オオルリシジミの繁殖地） ・烏川の上流には採草地・牧場・山仕事の守り神の山神社 ・風穴による蚕種の保存 ・くれ木の産地 ・石灰石の産出
産業の関係・課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○生業のなかで育まれてきた文化・技術等の継承が課題 ○国営公園や地元の団体等が連携して地域づくりを推進
市民活動等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○岩原の自然と文化を守り育てる会 ○塚原地域づくり振興会 ○国営アルプスあづみの公園との連携活動 ○さとやま楽校（やまこの学校・クラフトゲート匠の森）



常念岳とれんげ畠



国営公園のれんげ畠と山口家の屋敷林



古墳の発掘調査



烏川からの取水



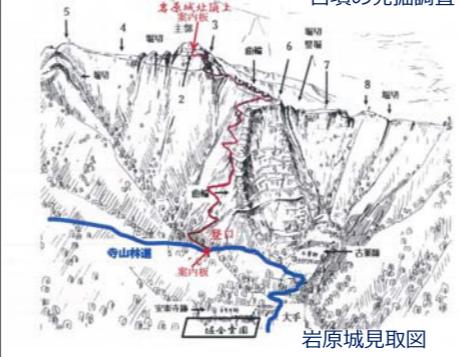
岩原堰の水



オオルリシジミ



食草クララ



岩原城見取図



大庄屋山口家



国営公園内での田植え体験